

2005年

5

月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 140

もくじ

- 2 アカデミーの窓
- 3 まなびの広場
- 4 特集 インタビュー 田中 喜美子さん
- 6 芸術・文化ロード
- 7 まち・ひと・多面体／くらし百景 俳壇
- 8 イベントパーク



ポスター「ヴァンジャンヌの殺菌牛乳」：テオフィル＝アレクサンドル・スタンラン

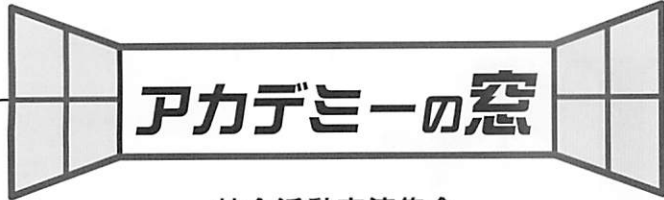
発行・財川崎市生涯学習財団

〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085

ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp



アカデミーの窓

社会活動交流集会

「地域活動に生きる」を開催

「かわさき市民アカデミー」を修了して、あるいは学び続けながら、一緒に学んだ仲間たちと、自主的にグループを結成して、地域で活動している社会参加活動グループが40団体以上存在しています。地域の生活に密着しているだけに、その存在をあまり知られてこなかったグループもあります。3月26日、4団体を招き、日頃の活動について話していただき、地域活動について考える会を開催しました。

①生活自立支援グループ「こころ」

「高齢者福祉コース」でホームヘルパー2級研修を修了した5人の仲間たちで立ち上げ2000年3月から活動を開始。その人らしい生き方を尊重できるような在宅介護の支援がしたいとの思いからスタートしました。現在は、介護保険・障害者支援費制度枠外訪問介護を基盤に、利用者や家族への介護保険や地域の情報提供・相談など生活の場づくりを支援しています。代表の岡本貴美子さんは、「アカデミーでの学びがなければ、現在の活動は考えられない」と語ってくれました。

②朗読ボランティアのグループ「レザミ（友達）」

代表の川口初江さんは、「ことばと映像コース」の江藤文夫先生のもとで朗読の指導を受けました。98年10月に幸図書館主催事業「大人のための朗読会」の企画運営をしたこと

かわさき市民アカデミーの情報

をきっかけに活動を始めました。99年11月からは、毎月第4金曜日に川崎病院の小児病棟で読み聞かせもしています。今では、その活動も月4回に拡大し病室にも出向いています。絵本から紙芝居、手袋人形、手品など内容も多彩です。

③早野聖地公園里山ボランティア

会長の内田尚士さんは、「00みどり学コース」で学びながら、早野の里山林地の保全・管理、谷戸の生態系の保全・回復や炭焼きと農村文化の継承を目的としている会に5年前から参加してきました。下草刈などをしていて、ハイキングの人たちから貴重な緑は残してと言われることもあるとのこと。「下草刈によってキンランなど眠っていた植物が花を咲かせたりもすると説明し理解を得ている」と苦労を話します。

④「いちご会」

世話人の五十嵐さんは、地域で里山保全の活動もしていますが、福祉活動にも幅広く関わっています。かわさき市民アカデミーの「高齢者福祉」の第一期生で、早くから社会参加活動をしています。アカデミーの加藤美枝先生の講座では、事例研究がほとんどでしたが、そのお陰でボランティアにスムーズに入れたとのこと。自分のできる範囲で「無理せず、楽しく、安全に」をモットーに活動しています。

ゲストコメンテーターの日本青年奉仕協会事務局長の齋藤信夫さんから「ボランティアで何をやるかは自分で決めていい。そこには選べる楽しさがある。これからはグループ同士のネットワーキングで地域のいろいろな課題に対応していくことが重要」との助言をいただきました。

講師紹介

今号からかわさき市民アカデミーの講師を受講生等が紹介します。初回は学長の牧証名先生の登場です。

大人の先生お牧さん

「人間の思想Ⅰ」コース 佐藤 厚

10年ほど前、川崎に市民アカデミーができて、「人間学」を開講すると聞く。会社人間から普通の市民になるのに役に立つと思った。先進都市川崎で人権問題を指導されていた牧さんは、もの静かな大人の先生に見えた。初期の講師陣には解剖学の養老さん、正法眼蔵の森本さん、森の哲学者内山さんと世界に通じる先生方を招いてくださった。知の大海に泳いで自分の矮小さを知るばかりだった。

受講生の経歴はさまざま、ゼミのワークショップは勝手放題。思慮深い理論派の悲観論と直情径行派の楽観論などどりの説を牧先生は皆受け入れて、じっくり広げてやさしく話されると何となく納得させられる。お人柄のなせるわざでしょうか。研修旅行で永平寺から金沢へなど一緒に歩いた思い出は深い。

眼鏡の奥の眼差し

「人間の思想Ⅱ」コース 千田 智子

牧先生には、5年前の春に市民アカデミーの開講式で初めてお目にかかりました。物静かで穏やかな雰囲気でありながら、眼鏡の奥に光る眼差しからは厳しさも感じとれたことを思い出します。人間学の演習の中で、あるときは中学生で体

プロフィール

牧 証名（まき・まさな）

東京大学教育学部卒。専攻は教育行政学、教育法学。84年から86年まで川崎市教育懇談会委員。93年から「かわさき市民アカデミー」運営委員となり、主に人間学コースの企画編成を担当。2004年4月からアカデミー学長。



験された戦争について、内に秘めた怒りがとても大きいことを示す厳しい声で話されていました。また或るときは、お母様がとても優しい方であったこと、字も縫い物の針目もとても丁寧であったことなど、穏やかに懐かしそうに話されました。人間について、厳しい目と優しい目、その両方で見ながらも、各々から得たものをおおらかに包み込み、そのままを受け入れて接して下さる方です。言葉だけでなく、その眼差し、在りようからも多くのものを学ばせていただきました。良き聴き手でもある先生に見守られて、わずかずつではありますが変化している自分を感じます。そして、牧先生と共に遊ぶ課外授業も楽しいものです。講座打ち上げ時に限らない飲み会、ハイキング、宿泊研修等で先生の魅力は倍増します。

パソコンセミナー受講生募集

パソコンの基礎から応用まで幅広く講座を開催しています。申込締切日を過ぎていても空いている場合もありますので詳しくはお問い合わせください。

◆難易度… [やさしい] ☆<★<★★<★★★<★★★★☆ [難しい]

講座名	難易度	講座No	開催日	受講料	申込締切
パソコン入門	☆	5-C	5/18(水)・19(木)	13,000円	4/27(水)
デジカメ画像編集講座	★★	5-D	5/24(火)	5,000円	5/2(月)
住所録作成・宛名差込印刷講座	★★★	5-E	5/25(水)	5,000円	5/6(金)
パソコンステップアップ	★	5-F	5/26(木)・27(金)	13,000円	5/6(金)
EXCEL初級	★★	5-G	5/31(火)	6,500円	5/10(火)
WORD初級	★★	6-A	6/2(木)	6,500円	5/12(木)
ゆっくりじっくりパソコンセミナー	☆	6-B	6/3.10.17.24.7/1(金) [全5日間]	25,000円	5/13(金)
EXCEL中級	★★★★☆	6-C	6/4.11(上)	13,000円	5/14(土)
WORD中級	★★★	6-D	6/6(月)・7(火)	13,000円	5/16(月)
パソコン入門	☆	6-E	6/13(月)・14(火)	13,000円	5/23(月)
デジカメ画像で写真集作成	★★★	6-F	6/16(火)	5,000円	5/26(木)
パワーポイントでプレゼンテーション	★	6-G	6/25(土)	5,000円	6/4(土)
デジカメ画像編集講座	★★	6-H	6/28(火)	5,000円	6/7(火)
パソコンステップアップ	★	6-I	6/29(水)・30(木)	13,000円	6/8(水)

◆受講時間…9:30～16:30 (昼休憩1時間あり)

◆対象…18歳以上。5-D、6-B、6-Hは概ね50歳以上。定員各15人

◆会場…川崎市生涯学習プラザ 3階研修室

◆申し込み…はがき・Fax・電話で。希望講座No、〒、住所、氏名(ふりがな)、☎、Fax、年齢、受講目的を明記
〒211-0064 中原区今井南町514-1 生涯学習プラザ内事業推進室「パソコンセミナー」係

問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)5894/Fax(733)6697

ご利用お待ちしております

財団法人川崎市生涯学習財団では、市民の皆さんの多様な学習要求に応え、自主的な学習活動を支援する場として、つぎの施設を用意しご利用をお待ちしております。サークル活動や研修会、音楽・スポーツなどの学習の場として年末年始の休業日を除きご利用できます。申し込み、使用料等については、直接お問い合わせください。

施設名・場所・交通	施設内容・用途
川崎市生涯学習プラザ 中原区今井南町514-1 東横線・JR南武線 武蔵小杉下車徒歩12分 ☎044(733)5560	・大会議室(定員144人、講演会、会議、研修など-ビデオシステムあり) ・会議室3室(定員72人-2室、30人-1室、会議、研修、サークル活動など) ・円卓会議室(定員16人、会議、研修など) ・和室(10畳、12畳-あわせて使用も可、華道、きもの着付け、茶道など) ・多目的ルーム(124㎡、ダンス、合唱、楽器演奏など-音響セット、ピアノあり) ・フィットネスルーム(214㎡、卓球、エアロビクスなど)
新百合トウェンティワン 麻生区万福寺1-1-2 小田急線新百合ヶ丘下車徒歩2分 ☎044(952)5000	・多目的ホール(定員450人、式典、講演会、レセプションなど-ピアノあり) ・会議室2室(定員40人、各種会議-使用制限あり) ・研修室3室(定員30人-2室、24人-1室、各種研修会-使用制限あり)

財団主催の講座・相談・質館などの情報

まなびの広場

特集

インタビュー

「ニヶ領せせらぎ館」館長

田中 喜美子 さん



吹き渡る風に揺れるヒメジョオン、川底に影をうつすギンブナ、羽を休めるコサギ。たくさんの動植物に出会う多摩川のほとりは、ゆったりとくつろげる都市のオアシスです。多摩川は山梨県笠取山に源を發し、東京湾に注ぐ流路延長138kmの河川で、下流の約30kmが川崎市域を流れています。

今号では、多摩川について学び、河口から源流まで歩いたという「ニヶ領せせらぎ館」館長の田中喜美子さんを紹介いたします。田中さんは12年前、多摩川に魅せられ「多摩川と語る会」を結成。そして仲間と共に歩き、源流にたどりついた時の感動を『多摩川と語る～河口から源流まで歩いて』にまとめ出版しました。

「学ぶことは夢を追うこと」と、輝くばかりの笑顔で話す田中さんに活動のきっかけや水辺の魅力について伺いました。

多摩川と語り夢をつむぐ

——田中さんは、多摩川に魅せられ「多摩川と語る会」を結成し、河口から源流まで歩いたということですが、会をついたきっかけはどのようなことだったのですか。

田中 私は1991年の春に退職しましたが、肩書きのない未知の世界へ飛び込んで行きたいと思っていました。川崎都民であることにうしろめたさを感じていたので、地域につながるボランティアで何かできたらと思っていた時、生涯学習振興事業団（現生涯学習財団）で、市民企画講座の企画スタッフを募集していたので応募しました。これがきっかけですね。

この講座はスタッフがテーマや講師を決めて運営するというもので、応募で集まったスタッフと検討を重ね「川崎の母なる川多摩川のことをもっと知ろう」というプログラムを組みました。講座は3カ月で9回行い、文学に描かれた多摩川や歴史、水辺の動植物の自然観察など、いろんな角度から取り上げました。70人の方が毎回熱心に参加してくださり、企画した側としては手ごたえ十分で嬉しかったですね。講座終了後「もっと多摩川を知りたい」という声があがり、有志29人で「多摩川と語る会」を結成しました。

——1999年に出版された「多摩川と語る～河口から源流まで歩いて」を読ませていただきました。

田中 会の目的は、河口から山梨県の笠取山の源流まで、138kmを自分たちの目で見、足で歩いて多摩川を知ろうとい

うことでした。1993年9月に河口を出発し、隔月に一度のペースで5kmから7km、植物や鳥の観察とともに流域の歴史探訪をしながら歩きました。そして4年8カ月、27回かけて源流にたどりついたのは1998年5月でした。笠取山の水干の岩間から落ちる源流の一滴を口にした時は本当に感激しました。会員一人ひとりが、一滴をいつくしむように掌に受けて口にしたその感動が本を出版する原動力になりました。20世紀、人間は川を汚してしまっただけでも多摩川にはまだ自然がいっぱい残っていました。私たちの歩いた一回ごとの観察記録と流域市民の多摩川への熱い思いを綴って、21世紀に伝えたいと思ったのです。国会図書館にも納本したんですよ。

——どのくらいの方が参加したのですか？

田中 1回目の参加者数はのべ831人でした。その後2度目も踏破し、この時はのべ1074人。今、会として3度目の源流踏破をめざして歩き始めています。

——水辺を歩き続けてどのように感じますか？

田中 多摩川を歩こうというと、皆さんは整備された土手を歩きますよね。私たちはなるべく水辺を歩きました。土手と水辺では自然が全く違うのです。水辺は一步間違えると川の中に落ちるといった危険もありますが、必死になって親を追いかける稚魚や、寒い冬を耐えぬいた小さな草の芽など、自分の力で生きている生き物の命のいじらしさやたくましさを感じ

じさせてくれる場所なんです。百万都市の中で、野生の自然が残っているすばらしい場所です。私たち人間も自然界の一員で「こんにちは」と声をかけて歩かせてもらうという感じで、道のない所を草をかき分け歩いています。道は人が歩いて出来るものです。どんどん水辺を歩いて欲しいなと思います。

——ところで、田中さんは「ニヶ領せせらぎ館」の館長としてもご活躍ですが、せせらぎ館はどんなところですか？

田中 せせらぎ館は、1999年4月にオープンしました。国土交通省によるニヶ領用水宿河原堰の改築の際に建設された管理所の一部を開放してもらいました。多摩川とその流域をまるごと野外博物館にして、流域の自然や歴史・産業遺産を学びながら保存し、継承しようという「多摩川エコミュージアム構想」を進めてきた川崎市と複数の市民団体が運営委員会を作り、協働で管理を行ってきました。国土交通省がすすめる「多摩川流域リバーミュージアム」の拠点にもなっています。その後、2002年夏に「NPO法人多摩川エコミュージアム」として独立し管理・運営するようになりました。せせらぎ館は多摩川流域の情報の交流や、川に関連して活動する市民団体の拠点となっています。案内業務などは約20人のボランティアが交代で行っています。

1階の床には、多摩川138kmの流域を写した一万分の一の航空写真が貼ってあり人気があります。とても精巧にできていて、皆さんループで見て自分の家や学校を見つけて喜んでいます。中央に置かれたモニター画面には、宿河原堰の両側にある魚道を遡上する魚の姿がリアルタイムで映し出されます。ここでは、市民の人たちと多摩川の感動や川崎のすばらしさを分かち合えるような写真や絵画、クラフトなどを随時展示しています。パソコンも置いてあり、多摩川に関連した内容をいつでも検索することができます。



10万人目の来館者に記念品を渡す田中さん（本告龍造さん撮影）

——昨年3月、来館者数が10万人に達したそうですね。

田中 オープンしてから5年を待たずに10万人達成というのは本当に嬉しいことです。年間2万人、一日平均にして60人の方が来館して下さったことになります。わずか90㎡の展示スペースですが、私たちはどんな方も大切なお客様としてお迎えしました。来館者は散歩がてらの人から総合学習の時間に来る小学生、大学の卒業論文作成の人などさまざまです。リピーターも多く、不登校の生徒さん、福祉作業所の方などもよく来館されます。10万人達成の「お祝いの集い」の時に、市民の方から「ボランティアさんはいつも笑顔で親切に対応してくれてとても感じがいい」と言われ、嬉しかったですね。ボランティアは川の専門家ではありませんが、自分たちが知



参加（安元順さん撮影）河口付近に菜の花を植える活動に

っている多摩川を相手の方と同じ目線に立って紹介しているので、親近感がありお話を弾むようです。

——活動を通してどのようなことを感じていますか。

田中 退職して未知の世界に飛び込み、気がついたら多摩川にどっぷりという感じでしょうか。思ってもみない日々が展開しています。この活動で源流をはじめ対岸の粕江や世田谷など多くの方々と交流がありましたが、多摩川という一本の川で結ばれているという強い絆を感じます。世田谷の仲間と障害のある方と共に「フィジー共和国友好親善」に出かけたこともあり、「川が結ぶエネルギーはすごい」と思いました。人と人の絆が大きくふくらんで夢が実現して行くような気がします。私にとって人と人の絆は天が与えてくださった宝物で何よりも大切にしているものです。

——最後に抱負をお聞かせください。

田中 川崎には多摩川138kmの約四分の一の30kmが流れ、かつ河口があります。川崎市民の方々にもっと多摩川のことを知ってもらい親しんでもらおうと、多摩川環境プロジェクトの仲間で環境セミナーを三年ほど続けてきました。その集大成として「多摩川の野草百花」を作ることになりました。多摩川の自然のすばらしさを「わかりやすく楽しく」知ってもらうため、それぞれの野草をボタニカルアート（細密画）で描きポケットに入るくらいのミニ図鑑を、と思っています。

それからもう一つ。多摩川の美しい源流は、源流域の方々が過疎の中で守り続けています。多摩川の河口も美しく保つために市民として何かしたいと思い、昨年秋に河口の浮島で活躍している「海風の森をMAZUつくる会」と連携し河津桜の根元に菜の花を植えました。河口は羽田を飛び立つ飛行機が手でつかめそうな所なんです。子どもたちと一緒にみんなの手を携えて、そこに菜の花畑を作っていきたい。そんな夢も広げていけたらと思っています。

田中 喜美子 さん（たなか・きみこ）

「多摩川と語る会」代表。ニヶ領せせらぎ館館長。NPO法人多摩川エコミュージアム副代表理事。東京都武蔵野市生まれ。日本女子大学卒業。国家公務員を退職後、地域の活動に。1992年、「多摩川と語る会」を発足。2001年、ニヶ領せせらぎ館館長に就任。多摩川に魅せられ、源流のある山梨県笠取山水干を訪ねること20回余、河口から源流まで踏破すること2回。現在3度目の源流踏破をめざして歩き続けている。趣味は朗読、帽子づくり。麻生区在住。

藝術文化ロード

このコーナーでは、日本民家園、市民ミュージアム、青少年科学館、岡本太郎美術館の施設を紹介し、それぞれの館の特色や見どころを順次掲載します。今回は古民家の野外博物館である日本民家園からお届けします。

茅葺き屋根のてっぺんに注目！

日本民家園には国・県の重要文化財になっているたくさんの古民家がありますが、今回は屋根の見どころを紹介します。

右の写真をご覧ください。屋根の上に黄色の花が咲いています。これはアヤメ科のイチハツです。屋根の手入れをしなかったから生えてきたわけではなく、わざわざ屋根のために植えたものです。咲くのは5月上旬から中旬で、年によって花のつき具合が違いますが、これを楽しみに来園する方もいらっしゃるほどです。茅葺き屋根のてっぺんの部分(棟)は、雨風にさらされる場所で、それを防ぐのに各地でいろいろ工夫がなされてきました。

この家、旧清宮家住宅(多摩区登戸)は、土の重さで棟を押さえ、土が飛ばないように植物を植える「芝棟」です。園には、他に蚕影山祠堂(麻生区岡上)や旧広瀬家住宅(山梨県)も芝棟で、後者にはごつごつと変わった形をしたイワヒバ(イワヒバ科)が植えられています。同じように重さで固定するタイプでも、旧菅原家住宅(山梨県)の屋根には、神社を連想させる千木(グシグラともいう)が乗り、端に「からすどまり」と呼ばれる板(右欄図)が付いています。

茅葺きという有名な合掌造り(五箇山・白川地方)で、堂々とした大きい屋根には何ともいえない魅力があります。園には4棟移築されていますが、この棟には日本髪に使う「かんざし」が差してあるように見えます。筭棟とよばれ、かんざし(水梁ともいう)の両端にツルや縄などをかけて棟を固定しています。また、旧北村家住宅(秦野)の棟は竹で編んだ簀をかぶせ、平葺きの押え竹に結び付けています。(竹簀巻)。筭棟と同じで下地に棟を縫い付けるタイプです。

古民家など25棟のうち、茅葺き屋根は18棟。ちょっと見上げてみると、地方により変化に富んでいることに気づきます。屋根の形には切妻造・入母屋造・寄棟造と大きく3つの形があり、傾斜も合掌造りのように60度に近いもの、45度のものなど、気象条件、環境、地域によりさまざまです。

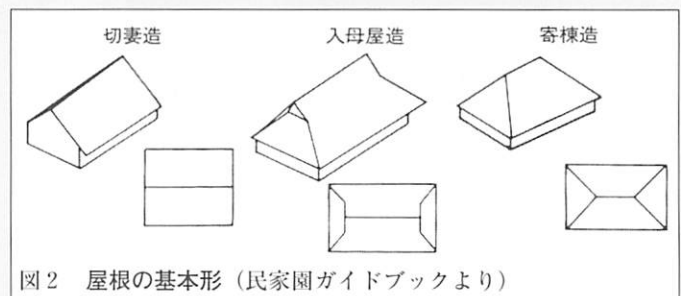
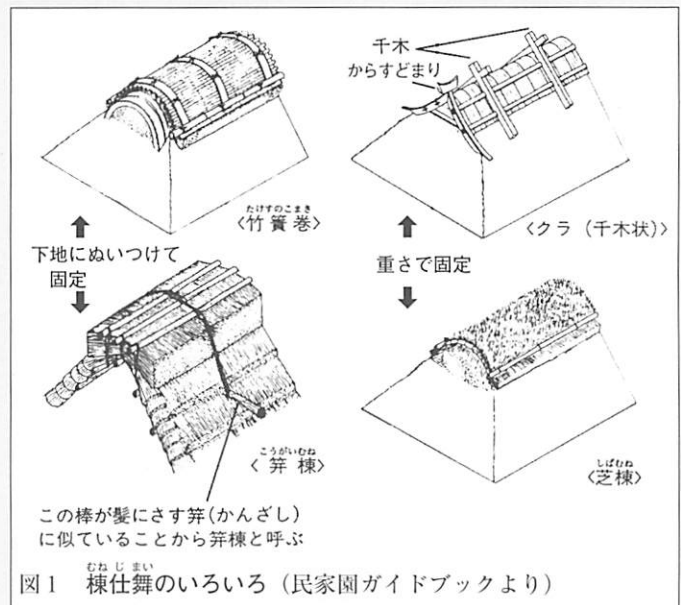
民家園のこんなちょっとした魅力をお客様に伝える強力な助っ人が「炬燵の会」ボランティアのみなさんです。毎日2~3棟、囲炉裏に火を入れてお客様を床の上まで迎え入れたいです。家のことを詳しく聞くのもよし、ポォーと火のそばでくつろぐのもよし、いろいろな魅力を感じていただければと願っています。(学芸員 木下あけみ)

●民家園「催し物」案内●

- ◆「古民家で聞くむかし話」5月8日(日)13時半と14時半
 - ◆「体験学習講座」★▽5月22日(日)ぞうり▽5月29日(日)~(3回連続)はたおり▽7月3日(日)竹細工
 - ◆講座「民家のみかた・調べ方」★6月11日(土)~3回連続
 - ◆講座「古民家の話—神奈川の村」★7月9日(土)~3回連続
 - ◆「映像記録上映会」5月8日(日)と7月10日(日)
- ★印は事前申し込みが必要です。



旧清宮家住宅の屋根に咲くイチハツ



- 「園内ガイド・解説」原則として毎週土曜日14時
 - 「実演」わら細工▽竹細工▽はたおり▽紙すきなど…日曜日
 - 「床上公開」毎日どこかの民家で公開
- 問い合わせ：日本民家園 ☎044(922)2181 Fax(934)8652
交通：小田急線向ヶ丘遊園駅南口徒歩12分
<http://www.city.kawasaki.jp/88/88minka/home/minka.htm>

まち・ひと・多面体

半世紀にわたって受け継がれた気象観測
—西生田小学校—

麻生区の西生田小学校（田辺三枝子校長、児童数997人）では、毎日の気象観測を始めてから58年目を迎えます。

きっかけは、昭和22年の開校時に遡ります。同校の教員だった箕輪敏行さん（川崎天文同好会代表）が「自然を見つめ、科学を通して子どもたちに生きがいを与えたい」と観測を始めたことが発端です。以後児童や教員が変わっても気象観測は受け継がれ現在まで続いています。

観測を始めた当時は「棒寒暖計」や「一枚板風信器」を使って高学年の児童が交代で観測していたそうです。昭和28年の春、蓄積された観測記録の比較から「前年の同じ時期よりかなり気温が低い」ことがわかり、地元の農業関係者に知らせ農作物が霜の被害を免れたというエピソードもあるそうです。新聞、雑誌、テレビ等にも多数取り上げられています。

早春のある日、観測の様子を取材しました。朝8時半、校庭の百葉箱の前に、自然科学委員会の5年生6人が勢揃い。観測する項目は「温度」「湿度」「気圧」「最高最低温度」「天気」です。天気は空全体に対する雲量の割合で「快晴」「晴れ」「曇り」を判断します。「今日は雲量が9だから曇りだね」と

話しながらノートに記録していました。

子どもたちは「自分の目で気温を見、湿度を計算し、気圧の調べ方を知って、自然現象に興味が出てきた」「自分で正確に観測しそれを残すことが楽しみです」などと話していました。また、自然科学委員会では、運動会や遠足などの行事の前に、校内放送を通じて天気予報を伝えています。「過去30年の観測データを見ると、明日は晴れの予報です。暑くなりそうですので、タオルを準備しましょう」と全校児童に呼びかけています。

田辺校長は「このような活動は貴重な財産です。子どもたち自身の直接観測を続けていって欲しい」と語っていました。



くらし百景

俳壇

「民家園を詠む」入選俳句

- | | |
|-----------------|-------|
| 古民家の土間昏れ易し鉦叩 | 永塚 泰 |
| 石置きの屋根に猫居る小春かな | 佐藤貴志子 |
| 馬宿の土間の匂や秋深し | 福田 和子 |
| 古民家に風の先客萩の花 | 野沢 郁子 |
| 古民家の囲炉裡に座して異邦人 | 黒田美智子 |
| 山裾の廻り舞台に木の葉舞ふ | 井上 由江 |
| 古民家のどの家も親し菊日和 | 塩沢 奎子 |
| 古民家の土間のでこぼこ秋深し | 吉川美智子 |
| 曲屋の土間は父の香ちろちろ鳴く | 白井 爽風 |
| 大八を引く子押す子や秋うらら | 大脇 徳恵 |
| 古民家の土間暖かし藁細工 | 木藤 允子 |
| 手斧あと残す棟木や萩の風 | 木村 郷子 |
| 板葺に百の石置き秋澄めり | 菅野はるみ |
| 茅葺に雨やはらかし赤のまま | 結城 恵子 |
| 飼葉桶転がる土間や秋闌くる | 大脇 徳恵 |
| 古民家の裏もめぐりて秋惜しむ | 斎藤 葉子 |
| 枯萩に風重ねくる民家園 | 島田八重子 |
| 古民家の縁の釘浮く野分あと | 池内 英夫 |
| 民家園課外授業や天高し | 佐藤 正和 |
| 通り土間抜けて冬日を浴びにけり | 池之上輝夫 |
| 風に舞ふ桜紅葉や能舞台 | 三橋 喜代 |
| 船頭小屋色無き風の中に佇つ | 小川木久江 |
| 行秋や目鼻分かたぬ道祖神 | 小林 要 |
| 棉の実やさみしき時は正座して | 結城 恵子 |
| 船頭小屋菅の渡しに萩こぼる | 佐藤 正和 |

※ 日本民家園では昨春秋に川崎文化会議と共催で、民家園を題材にした俳句を募集したところ、十一歳から九十一歳までの一四八人の方から四四二句の応募がありました。その中から、川崎俳句連盟の十二人の審査により選ばれた二十五句を紹介します。

問い合わせ：日本民家園 ☎ 四四（九二三） 二一八一

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●難聴者のための入門手話講習会～要約筆記(OHP)つき

5月25日～7月6日の毎水曜10時、全7回。多摩区中野島の川崎市多摩川の里。対象は難聴者とその家族・関係者。参加費500円。☎5月19日(木)までにFax、はがき、☎で。〒211-0037中原区井田三舞町14-16川崎市聴覚障害者情報文化センター団体交流室内「川崎市中途失聴・難聴者協会」。Fax(753)0596。☎(945)7381(会員宅)。

●入門点字講習会

6月7日～7月5日の毎火曜18時半から、全5回。川崎市南部身体障害者福祉会館。対象は市内在住・在勤・在学の20人。費用は1680円。☎5月25日(木)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、「入門点字講習会希望」と記し〒210-0834川崎区大島1-8-6南部身体障害者福祉会館。☎(244)3971。

●東芝科学館実験教室①GEMS探検隊②ガリ工房実験教室

①は5月21日(土)。10時からは「透明の物体の不思議」、対象は小学1年～4年。13時半からは「銅像を溶かす雨の不思議」。小学3年～中学生。②は5月28日(土)10時と13時半。「火山のミニモデル作り」。小学3年～中学生。①②とも各回50人、要予約。参加費各500円。☎☎(549)2200の同館。

●玉川大学公開講座

5月開講の「納得の写真を撮るには」「動物折紙入門」「江戸の絵画」など48講座の受講生募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●日本女子大学公開講座

5月開講のマ意識と行動マオペラを楽しむなどの受講生を募集。会場は同大西生田生涯学習センター。詳細は☎(945)3323。

●川崎市民プラザ「社交ダンス教室」

5月14日～7月16日の毎土曜、全10回。ベーシッククラスは9時半。ステップアップクラスは12時。受講料12000円。☎☎受講料を添えてプラザフロントへ。☎☎(888)3131。

●ミニ画廊スナック「琴」①写真展②書道展

①5月14日(土)まで、雅の会の作品。②5月14日(土)～28日(土)、越川サカエ・菅原美代子の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎☎(544)0507。

●市民ミュージアム企画展～木村伊兵衛写真賞の30年

6月19日(日)まで。最新受賞者を含む作家36人の作品400点を公開。一般700円、学生400円、中学生以下・65歳以上は無料。月曜、5月6日(金)休館。☎☎(754)4500。

●ランチタイムコンサート

5月18日(木)12時15分、市役所第3庁舎ロビー。出演はピアノの井谷佳代。☎☎(520)0100のミュゼ川崎。

●川崎市民交響楽団第161回定期演奏会

5月22日(日)14時。川崎市教育文化会館。入場料1000円。モーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」、ブラームス「交響曲第4番」他。☎☎(333)7885の林さん。

●第2回ジェイミーのコンサート

5月26日(木)11時。ミュゼ川崎市民交流室。2500円(演奏と茶話会)。出演は館市正克(バイオリン)・フィリップ・スミス(ピアノ)・小川典子(おはなし)。バッハ「シャコンヌ」、ガーシュイン「ポーギーとベス」より他。☎☎ジェイミーのコンサート事務局(竹内歯科医院内)☎(511)2955。

●中島由紀&ロマン・ギュイオデュオリサイタル

6月5日(日)14時開演、糀ホール。フレンチクラリネットとピアノのアンサンブル。3000円。☎☎(812)6090同ホール。

●お散歩コンサート

5月14日(土)14時開演。川崎市教育文化会館大会議室。声楽家の指導で童謡や唱歌などを参加者全員で歌う。無料。☎☎(233)6361の教育文化会館内同実行委員会。

●2005あさおサークル祭

5月21日(土)22日(日)。美術展は5月20日(金)～25日(木)。麻生市民館。同館を拠点に学習活動しているサークルの展示や発表。☎☎(954)1181同館サークル連絡会の本玉さん。

●天体観望会

5月21日(土)19時から。場所は川崎授産学園。月・土星・木星・二重星・春の星座を観望。雨天時は室内で天文集会。無料。小学生以下は大人同伴。当日直接。☎☎(954)5011。

●混声合唱団「あさおコーラスミール」団員募集

発足4年目の会で日本の歌や世界の歌を歌っています。練習は毎火曜18時、新百合ヶ丘のあさお診療所2階他。入会金1000円。月会費4300円。☎☎・Fax(986)9434の阿部さん。編集室からお知らせ

今号から紙面構成が一部リニューアルします。

◆表紙は川崎市市民ミュージアムの所蔵作品(ポスター・浮世絵等)や、岡本太郎美術館の所蔵作品を掲載します。

◆4ページは「アカデミーの窓」コーナーとし、かわさき市民アカデミーの講座や受講生の声、講師紹介などをお届けします。5ページは「まなびの広場」コーナーとして、財団主催の各種講座や生涯学習プラザの貸館の案内の他、生涯学習に関する情報を掲載します。

◆6ページは「芸術・文化ロード」コーナーとして「川崎市市民ミュージアム」「岡本太郎美術館」「日本民家園」「青少年科学館」の4館から、アートや歴史、自然、天文などの話題を順次掲載します。

今月の表紙

フランスのポスター。1894年の作品。大きさは134.6×95.1cm。川崎市市民ミュージアム所蔵。

19世紀初頭までは、農家が直接パリまで売りにきていた牛乳も、カフェオレの流行などにより需要が増えると、パリ近郊からだけでは供給が追いつかなくなった。しかし、遠方から運べば腐ってしまう。この問題を解決したのが、バスターールの殺菌の発見とそれに続く殺菌法の発明である。このポスターは、作者スタンランが愛娘をモデルに、猫にやる牛乳が熱すぎないか確かめ、足元では猫が待ちきれずにねだっている場面を描いたもの。